



平成20年度 郷土資料館特別展

「ジョセフ・ヒコ」

播磨町で生まれた「新聞の父」ジョセフ・ヒコが
1858年にアメリカの市民権を得てから、今年で150周年となります。

⑩ 絆

ジョセフ・ヒコが日本に帰ってから栄力丸の方へ渡した、「絆」を感じるお土産を紹介します。



▲この一枚にさまざまな思いが…(現物 個人蔵)

【ヒコ・クイズ】ここに描かれている人は、だれでしょう。

- ① バン・リード氏
- ② サンダース氏
- ③ リンカーン大統領

ジョセフ・ヒコが日本に帰ってから、栄力丸の元乗組員と直接会ったという記録はありません。鎖国がまだ厳しく守られていたため、外国から帰って来た人は、ほとんど地域から外へは出られません。ただ、ジョン万次郎や清太郎のように、幕府や藩に勤めた人は別でした。

その中で、ジョセフ・ヒコは、アメリカ人であるとともに、伊藤博文のようなよき理解者がいたため、かなり、自由に活動していて、郷里にも3度ほど帰っています。その間に、清太郎の家などに、あいさつに訪れたと言われています。しかし、本人に会って話をしたとの記録はありません。ただ、お土産として、いくつかの物を渡したとされています。

ここで紹介したのは、1860年10月20日のアメリカの新聞です。描かれているのはリンカーン大統領です。新聞の日付から、選挙結果が出た直後と考えられます。ちなみに、ジョセフ・ヒコがリンカーン大統領と会ったのはこの新聞発行日から2年後であり、播磨町に最初に帰ってくるのは、8年後の1868年になります。そのとき渡されたと考えられますので、新聞が発行されてから8年間は、ジョセフ・ヒコの手元で大切にされていた可能性があります。

その大切な物をお土産として、本荘村の人に渡したのです。受け取った人は、お土産の中心より「彦太郎」がやって来たことに深い意義を感じたと思います。思わず「立派になって」など、声を掛けたことでしょう。互いの強い「絆」がここに見えます。

(郷土資料館 田井恭一)



クイズの答 ③ リンカーン大統領

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079 (435) 5000

絵ものがたり『ジョセフ・ヒコと洋式帆船の男たち』(播磨町ふるさとの先覚者顕彰会) 発売中2,500円



町の人口 12月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,266人 (-37人) 男…16,804人 (-22人) 女…17,462人 (-15人) 世帯数…13,371 (-2)